

特集「ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用」の編集にあたって

宮 部 博 史[†]

企業や研究機関はもとより、一般家庭にまで光ファイバ、ADSL が急速に普及し、いまや名実ともにブロードバンドネットワーク時代を迎えている。加えて、携帯電話、無線 LAN 等を中心としたネットワークの面的な広がりも進み、いわゆるユビキタスネットワークの時代に突入している。ブロードバンド化やユビキタス化を支えるネットワーク技術に加え、このようなネットワークの普及を前提とした Web サービス、P2P 等のマルチメディア処理や分散処理による新しいアプリケーションや、固定・移動端末連携 (FMC)、放送通信連携などの分野横断的なサービスの研究や開発も急速に進展してきている。

この分野の研究テーマについては、情報処理学会の「マルチメディア通信と分散処理 (DPS)」研究会が中心となって活発な研究が続けられてきている。DPS 研究会は年 4 回の研究会を開催し、毎年 DPS ワークショップを主催し、DICOMO シンポジウムを共催している。また、さまざまな国際会議への協賛、協力を行ってきている。

このような活動を踏まえ、ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用に関して、プロトコルや通信品質などのネットワーク技術から、プラットフォームやミドルウェアといった基盤技術、さらにはアプリケーションやサービスまでの広範な研究全般についての最新の研究成果や開発事例に関する論文を、一括して掲載することを目的として、本特集号を企画した。

本特集号には、58 件の論文が投稿された。これらの投稿論文に関する専門分野を持つ 21 名の委員によって構成される特集号編集委員会を組織し、通常の査読と同様、論文 1 件に対して 1 名のメタレビューアと 2 名の査読者を割り当てて査読を行った。審査の過程で論文取り下げが 1 件あったが、最終的に 26 件の優秀な論文が採録となった。採録された論文のテーマは、ネットワークプロトコル、ネットワーク品質や制御、ネットワークセキュリティ、分散処理技術といったネットワーク技術、基盤技術に関するものから、ユビキタスコンピューティングやインタラクション支援といっ

た応用にいたるまで非常に多岐にわたり、本特集号では幅広いテーマに関する優秀な論文を数多く掲載することができたと考える。本特集号が 1 つの通過点となり、この分野の研究開発がますます発展することを期待したい。

最後に、本特集号をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会、迅速な査読にご協力をいただいた査読者各位、特に、多くの作業の取り纏めをいただいた慶應義塾大学の重野先生および学会事務局に感謝したい。

「ブロードバンド・ユビキタス・ネットワークとその応用」特集編集委員会

- 編集長
宮部 博史 (NTT)
- 編集委員
渥美 幸雄 (専修大)
勝本 道哲 (情報通信研究機構)
菊地 浩明 (東海大)
木原 民雄 (NTT レゾナント)
串田 高幸 (日本アイ・ピー・エム)
齋藤 正史 (三菱電機)
斉藤 裕樹 (東京電機大)
佐藤 文明 (東邦大)
重野 寛 (慶應義塾大)
柴田 義孝 (岩手県立大)
菅沼 拓夫 (東北大)
関根 徹 (日本 TNS)
滝沢 誠 (東京電機大)
寺西 裕一 (大阪大)
西山 智 (KDDI 研究所)
原 英樹 (千葉工業大)
東野 輝夫 (大阪大)
藤巻 貴宏 (富士ゼロックス)
馬島 宗平 (NTT)
三宅 基治 (NTT ドコモ)

[†] NTT